

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	地域包括ケアシステムにおける多職種連携に関する研究				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	木村 綾
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	東野 定律
		所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	天野 ゆかり
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	木村 綾

講演題目	地域包括ケアシステムにおける統合ケアに関する研究
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>我が国では、介護保険制度改革において、地域におけるケアのあり方を中心とする改革として「地域包括ケアシステム」が提示され、2025年に向けたサービスのあり方として、医療と介護の連携を強化し、在宅要介護者に対する医療サービスを確保することや多職種によるチームケアを推進すること等が進められてきた。こうした高齢化の進行やそれに伴う疾病構造の変化、社会資源やサービスの分断化は、日本のみの課題ではなく、多くの国々においても、医療や介護、保健のサービスの提供体制の改革が進められている。そのなかで、長期的で包括的・継続的なケアへの移行を促すために多くの先進国で取られている手法が、ケアサービスの連続性と統合を向上させ、その重要なプロセスとしてのケアの質・アクセス・効率性を改善するための統合ケアである。</p> <p>そこで、本研究では、包括的なサービスの提供に向けたシステムの構築を検討していくために、地域における統合ケア提供に関する概念や定義、国内外の研究等の整理、検討を行った。</p> <p>統合ケアに関しては、WHOによる2002年の定義をはじめ、「高齢化と健康に関するワールドレポート」や「高齢者のための包括的ケア」のガイドラインを通して、政策またはセクターレベル、組織または専門レベル、臨床または介入レベルでの統合を強調してきた。一方で、多くの国々でヘルスシステムの統合に関するモデルへの関心が高まるなかで、モデルの実態を表現する用語や構成要素は統一されておらず、どのような実態を統合ケアとしてとらえているかの幅が広いこと、その実態の多様性、概念そのものの難しさが指摘されている。</p> <p>日本においては、統合のタイプ、システムや組織における目標とするつながりの強さ、統合の範囲を意味する概念として、水平的統合と垂直的統合があること等の検討を踏まえ、急性期医療体制を中核とした従来のヘルスケアシステムの再編として、integrated care と community-based care の2つの概念が内包された地域包括ケアシステムが位置づけられた。</p> <p>導入当初、退院後の高齢者が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けるための医療と介護の連携に注目されていたが、その概念が拡大・深化し、高齢者のみならず、子どもや障害を持つ人も含め全世代を対象とした地域共生社会の概念が導入され、加えて、改正介護保険法では、地域住民が主体となったサービス提供を求める community-based care の概念がより強調されるようになった。地域包括ケアシステムの構築においては、各自治体が地域の実状を考慮し、必要なサービス提供システムを構築することが進められていることから、自治体によって統合のレベルや強度、幅は多様であることが想定される。今後は、統合ケアの実態の多様性を踏まえ、統合ケアの提供体制や他職種による統合ケアの研究の方向性を検討していく。</p>